

# 日本語のシ接続とシテ接続との対応から見た 韓国語の接続語尾「-고」と「-서」の使い分けの提案

滝澤宇大<sup>1</sup> 西口純代<sup>2</sup><sup>1</sup>小樽商科大学商学部商学科 <sup>2</sup>小樽商科大学言語センター

## 概要

日本語の「～(し)て」に対応する韓国語の-고と-서の使い分けの紛らわしさを解消するための方法、考え方の提案を日本語の中止形接続と絡め、検討した。-고と-서の様々な用法の例文をシ接続とシテ接続<sup>1</sup>で訳し、接続の自然さや文が表す意味を考察した結果、-고がシ接続、-서がシテ接続と似た機能を持つことがわかった。これにより、前後節に関連性がある接続における、関連性の強さの差を主張することができた。似た紛らわしい用法において関連性がより強い方には-서、関連性が弱いと言える方には-고を用いるという考え方を提案した。

## 1 はじめに

本稿では日本語の「～(し)て」に対応する韓国語の接続語尾-고と-서の使い分けの誤用について取り上げる。「～(し)て」には多くの用法があり、日本語ではその用法および意味を一つ一つ理解し意識的に使い分けの必要がないが、韓国語では-고と-서を使い分けなければならない。韓国語学習者の使い分けの誤用の傾向と要因を分析した結果を踏まえ、日本語の中止形接続を絡めた使い分けの方法を提案する。

### 1.1 「-고」 と 「-서」 の用法の分類

永原(2017)は日本語の「～(し)て」と韓国語の-고、-서の対応について以下のようにまとめている。

- 「①並列：-고と対応  
②時間的継起(先行、順序)：-고、-어서と対応  
③起因的継起(原因・理由)：-어서と対応  
④きっかけ(契機)：-고と対応  
⑤付帯状態(同時進行、手段・方法、条件)：-어서と対応する場合が多いが、一部〈様態〉を表す-고を含む」

(永原, 2017, p. 170)

<sup>1</sup> 先行研究における連用中止接続とテ形接続のこと。

この分野に関する先行研究においてはそれぞれの用法の分類が研究者ごとに異なる部分があるが、本稿では基本的にこの永原の分類に従った。

### 1.2 日本人学習者の誤用の傾向

日本人の韓国語学習者を対象にこの使い分けの理解度を測るテストを実施したところ、以下の4つのことがわかった。

〈1〉[並列]、[原因・理由]といった-고と-서それぞれの中心的な意味の理解度は高い。

〈2〉時間的継起の[順序]の-고と[先行]の-서における「前後節の関連性の有無」による使い分けの考え方が学習者によく浸透している。

〈3〉中心的な意味から外れ、テキスト等に掲載されない用法([きっかけ][付帯状態])の理解度が低く、これらの用法にも時間的継起における使い分けの考え方を適用してしまうと誤用が生じる。

〈4〉[原因・理由]の-서と[きっかけ]の-고、[手段・方法]の-서と[様態]の-고といった似たような用法における使い分けが学習者にとって紛らわしく誤用が多い。

以上を踏まえて、〈4〉の似た用法がそれぞれどう違うのか示し、その違いが学習者に浸透している〈2〉の考え方と共通することを示すことができれば、学習者にとって理解しやすい、紛らわしさを解消する方法といえる。また実施したテストの内容と結果については付録の表1を参照されたい。

## 2 日本語の中止形接続との対応

そもそも日本語の「して」は動詞「する」の連用形「し」に接続助詞の「て」がついた形である。「学校に行って、勉強する」のような前節と後節の接続がテ形接続と呼ばれるのに対し、「学校に行き、勉

<sup>ii</sup> [順序]の-고は関連性のない前件と後件を単に時間的に順序付けて接続し、[先行]の-서は密接な関係を持った前後節を接続する。

強する」のように「て」をつけずに連用形のままマス形でつなぐ形は連用中止接続、中立形接続などと呼ばれる。どちらも文を中止する機能を持った中止形である。本稿ではテ形接続を「シテ接続」、連用中止接続を「シ接続」と呼ぶ。益岡(2012)はシ接続は「単純列挙(並列)の表示を基本とし、場合によって連用関係の一部(継起/因果)の意味を含意」し、シテ接続は「広義連用関係の主要な意味領域である「並列・時間・論理(広義因果)・様態」の意味を包括的に表す」としている(p. 4)。-고가シ接続、-서가シテ接続にそれぞれ対応し、似たような機能を持つのではないかと考え、次の検証を行った。

## 2.1 検証

-고と-서で接続されるそれぞれの用法の韓国語の例文を、シ接続とシテ接続で訳し、どちらが適当でより自然な文章になるか、その接続がどう言った意味を表すかを考察したただしここでの不自然さとは、シ接続が書き言葉的で、シテ接続が話し言葉的な文体であることからくる不自然さではなく、文があらわす意味の不自然さや接続の不自然さとする。自然な接続に○、どちらの接続でも自然な場合、よりふさわしい接続と考えられればその接続に◎、やや不自然な文には△、明らかに不自然なものには×をつけた。

### [並列]

- a. 여름은 덥고 겨울은 추워요.  
夏は<暑く(◎)/暑くて(○)>、冬は寒いです。
- b. 남편은 영화를 봤고 저는 쇼핑했어요.  
夫は映画を<見(×)/見て(○)>、私は買い物をしました。
- b'. 저는 쇼핑했고 남편은 영화를 봤어요.  
私は買い物を<し(◎)/して(○)>、夫は映画を見ました。
- c. 배가 아프고 머리도 아파요.  
お腹が<痛く(◎)/痛くて(○)>、頭も痛いです。

[並列]の用法は韓国語では-고のみが対応する用法であるが、シ接続もシテ接続も用いることができた。ただ益岡(2012)は[並列]の領域で両者(シ接続とシテ接続)は競合関係にあるとしながらも「同類の事態」や「関係する複数の事態を分立・対立する」単純列挙では、「同次元的な共存関係を示すことから、中立系接続が優先される(p. 4~5)」(中立形接続=シ

接続)としている。確かに、話し言葉において並列の用法でもシテ接続が多用されるため不自然な感じがしないが、ここでの「て」は単なる接続の機能だけを担ったもので、前件と後件の並列感、羅列感は連用形の部分が担っているといえる。そのため[並列]の接続においてはシテ接続よりもシ接続がより適していると考える。また「見る/寝る/着る/来る」などのように連用形が一拍のものにはシ接続は一般的に用いられにくくシテ接続が用いられるため、例文(1)のb'はシ接続が不自然な文になった。

### [継起(順序/先行)]

- a. 오늘은 친구를 만나고 영화관에 갔어요.  
今日は友達に<会い(○)/会って(○)>、映画館に行きました。
- b. 오늘은 친구를 만나서 영화관에 갔어요.  
今日は友達に<会い(○)/会って(○)>、映画館に行きました。
- c. 저녁을 먹고 약을 먹었어요.  
夕飯を<食べ(○)/食べて(○)>、薬を飲みました。
- d. 아침밥을 먹고 회사에 가요.  
朝ごはんを<食べ(○)/食べて(○)>、会社に行きます。
- e. 도서관에 가서 공부해요.  
図書館に<行き(○)/行って(○)>、勉強します。
- f. 은행에서 돈을 찾아서 책을 샀어요.  
銀行でお金を<おろし(○)/おろして(○)>、本を買いました。

[継起]の用法において韓国語では関連性のない前後の動作を時間的に羅列した[順序]では-고、前件が後件の動作の前提になるなど前後に関連性のある動作を接続した[先行]では-서を用いる。(2)の例文において、a, c, dが-고を用いる[順序]、b, e, fが-서を用いる[先行]の例文である。どの文においてもシ接続とシテ接続を用いることができ不自然な文にはならなかったが、どちらを用いるかによって表す意味に違いもみられた。aが「その友達とは別れて映画館に行ったこと」を表すのに対し、bは「その友達と映画館に行ったこと」を表し、この意味の違いを韓国語では-고と-서で使い分ける。しかしシ接続、シテ接続のどちらで訳しても両方の意味を受け取ることができた。cとdにおいても、どちらの接続でも前後の動作をただ順序付ける文になったが、シテ接続を用いると「て」の完了の意味がより強く出た。

そのため前後の順序を強調する「～してから」の意味を表したい場合はシテ接続が適していると言える。ただ韓国語においてはそのどちらの表現でも-고を用いる。eとfにおいても、シテ接続を用いると「(行って)そこで」、「(おろして)そのお金で」というように前件が後件のための動作である意味、前後の結びつきの強さを受け取ることができたが、シテ接続ではそれが薄まった。益岡(2015)は「よく考えてお返事いたします。」を例に挙げ、継起の用法について「先後関係が明瞭な場合はテ形が優先される(p. 4)」としている。たしかにシテ接続に比べてシテ接続を用いた方が前後節の順序が明確化する。このように継起の用法においては、シテ接続が-고、シテ接続が-서にそれぞれ対応するとは言い切れなかった。

### [原因・理由/きっかけ]

- a. 많이 먹어서 배가 불러요.  
たくさん<食べ(△)/食べて(○)>、お腹がいっぱい  
です。
- b. 너무 바빠서 공부 못했어요.  
あまりに<忙しく(△)/忙しくて(○)>、勉強できま  
せんでした。
- c. 친구가 합격했다는 소식을 듣고 놀랐어요.  
友達が合格したという知らせを<聞き(○)/聞いて  
(○)>、驚きました。

[原因・理由]における用法ではa, bが-서、cは永原(2017)において[原因・理由]と区別される[きっかけ]として-고が用いられる例文である。[きっかけ]に分類される文においても前件が後件の原因・理由になっている、という考え方により[原因・理由]の-서と[きっかけ]の-고の区別が日本人学習者にとって難しい。a, bはシテ接続を用いると前後が切れて繋がりがやや不自然な文になった。cにおいてもシテ接続の方が前後に因果関係を強く感じることはできたが、シテ接続が不自然な文にはならず[継起]の意味が強く出た文として成立した。[原因・理由]の文(a, b)がシテ接続にすると前後の結びつきが切れて不自然になったのに対し、[きっかけ]の文(c)ではシテ接続で前後の結びつきが切れても影響なく文として成立した。このことから[原因・理由]に比べると[きっかけ]は前後の結びつきが弱いという考え方ができる。シテ接続が成立するかしないかという点から[原因・理由]と[きっかけ]の用法における前後節の結びつきの強さに違いがあるという考え方ができた。こ

れは二つの用法における-고と-서의使い分けの紛らわしさを解消する手段の一つになりうると考える。

### [付帯状況(手段・方法/様態)]

- a. 걸어서 학교에 가요.  
<歩き(×)/歩いて(○)>、学校に行きます。
- b. 버스를 타고 학교에 가요.  
バスに<乗り(○)/乗って(◎)>、学校に行きます。
- c. 알바이트를 해서 돈을 모았어요.  
アルバイトを<し(△)/して(○)>、お金を貯めました。
- d. 고무장갑을 끼고 설거지를 해요.  
ゴム手袋を<はめ(○)/はめて(◎)>、皿洗いをしま  
す。
- e. 의자에 앉아서 책을 읽어요.  
椅子に<座り(○)/座って(◎)>、本を読みます。
- e. '의자에 앉고 그 다음 책을 읽어요.'  
椅子に<座り(◎)/座って(○)>、その次に本を読み  
ました。
- f. 하루종일 서서 일했어요.  
一日中<立ち(×)/立って(○)>、働きました。

最後に[手段・方法]、[様態]を付帯状況としてまとめて考察する。この二つの用法において日本人学習者にとって紛らわしかったのが、「乗って行く」は[様態]の-고、「歩いて行く」は[手段・方法]の-서というように、どちらも「行く」方法であると考えられるところで接続を使い分けなければならない点だった。「乗って行く」は乗り込んだ時点で「乗る」動作が終了しつつ「乗っている」状態が「行く」動作と共に持続しているとして、「歩く」と「行く」が同時の動作と考えられる「歩いて行く」とは区別される。しかし、-서が用いられる「座って本を読む」も座った時点で「座る」動作が終了しつつ「座っている」状態が「読む」動作と共に持続していると考えられるため、-서にも[様態]の用法があると言える。以降、[様態]の-고と区別するため「[様態(姿勢)]の-서」と表記する。ただ、[様態(姿勢)]の-서を継起の[先行]の用法に含めている先行研究が多い。-서が用いられる[手段・方法]の例文a, c、[様態(姿勢)]の例文fにおいてシテ接続を用いると、a, fは文が成立せず、cも前後のつながりが不自然になった。宮崎(2015)は「歩いて行く」などの手段、「立って仕事をする」などの姿勢を表す接続について、「従属度が高く副詞に近づいているものは、第1中止形に

置き換えられない(p.183)」としている。b, dの[様態]の-고를シ接続で訳すとただ動作の前後を結ぶ継起の意味を受け取れるのに対し、シテ接続では「バスに乗るという手段で学校に行く」、「ゴム手袋をはめた状態で皿洗いをする」というように前後の意味関係が強調されるように受け取れる。[様態(姿勢)]の-서の例文eも、単に「椅子に座る」動作と「本を読む」動作の時間的な前後関係を表す文としても「椅子に座った状態で本を読む」という意味を表す文としても捉えられる。後者の意味を表すにはやはりシテ接続がふさわしい。前者の動作の順序を強調する場合は、f'のように「그 다음(その次に)」などの表現を追加し-고で接続したほうが適切である(継起の[順序])。以上のことから[手段・方法]、[様態(姿勢)]の-서にはシテ接続が対応すると言える。また[様態]の-고는、シ接続でもシテ接続でも自然な文が成立するが、「前件の動作の結果を持続した状態で」という[様態]の意味をより明確に表すにはシテ接続が適当である。宮崎(2015)で「従属度が高い」と述べられている[手段・方法]と[様態(姿勢)]は、単なる時間的な前後関係を表す文としても成立する[様態]に比べて前後の結びつきがより強いと言える。

## 2.2 考察・主張

全体を通して、シ接続では前件と後件の繋がりの強さが現れにくく、シテ接続を用いると前後節の意味関係がより表面化して現れた。これに加え-고の用法においてシ接続で訳して不自然な文になるものがなく、-서의用法においてシテ接続で訳して不自然な文になるものもなかったという結果も踏まえると、[順序]の-고と[先行]の-서의使い分けだけでなく他の紛らわしい用法においても、-고と-서で前後節の結びつきの強さに差があるという主張ができる。日本人学習者にとって特に紛らわしかったのが[きっかけ]の-고と[原因・理由]の-서의使い分け、[様態]の-고と[手段・方法]の-서의使い分けである。上述したように、[きっかけ]、[様態]の-고는どちらもシ接続で訳しても継起、単なる時間的な前後関係を叙述する文として成立するが、[原因・理由]、[手段・方法]の-서는シ接続で訳すと不自然な文となった。このことから[きっかけ]と[原因・理由]、[様態]と[手段・方法]ではそれぞれ前後節の結びつきの強さに差があることが言える。結びつきがより強いと言える[原因・理由]、[手段・方法]はどちらも-

서を用いる用法であり、時間的継起の[順序]の-고と[先行]の-서의使い分けにおける、[先行]は前後の関連性が高いという考え方と共通する。

この[順序]と[先行]の使い分けの方法を他の用法にも適用してしまうことで誤用が起きると先に述べた。しかしその誤用は、[きっかけ]や[手段・方法]、[様態]といった中心的な意味から外れる用法の分類がテキストにまとめられないことによって生じるものである。そのため、-고と-서의用法の分類を絞ることなく提示し、その上で[原因・理由]と[きっかけ]、[手段・方法]と[様態]それぞれの使い分けを今回示した前後節の結びつきの強さの差で説明することで、学習者の紛らわしさを解消しようとする。これは学習者に浸透している、「前後の関連性の有無」という[順序]の-고と[先行]の-서의使い分けにおける考え方と共通するため、学習者にとってより理解しやすいものであると言える。

## 3 まとめ・おわりに

本稿で述べてきたことをまとめると以下のようになる。

- ・「-고での接続は前後の関連性をなくすため、関連性のある前後は-서で接続する」という認識が浸透しているということ。
- ・-고がシ接続と、-서가シテ接続と似た機能を持つということ。
- ・前後節に関連性があるのに-고を用いる[きっかけ]、[様態]の用法について、それぞれ似た用法である-서의[原因・理由]と[手段・方法]に比べると前後の結びつきの強さが弱いと言えること。(前後の結びつきの強さに差があるということ。)
- ・-고と-서의用法の分類を絞ることなく提示し、その上で[原因・理由]と[きっかけ]、[手段・方法]と[様態]それぞれの使い分けを前後節の結びつきの強さに差があるという点で使い分けを説明するべきということ。

この分野におけるほとんどの先行研究において-고と-서는日本語の「て」に対応するとしているため、-고と-서에連用中止接続(シ接続)とテ系接続(シテ接続)を対応させることによる、使い分けの説明の主張はされてこなかった。これに加え、これまでの先行研究のように動詞の種類や目的語の移動などに触れた難しい説明に比べて、学習者にとって理解しやすい使い分けの説明の提案ができたと思う。

---

## 参考文献

1. 永原歩(2017)「韓国語の接続語尾「-고 ko」と「-아서 aseo/어서 eoseo」の誤用と習得」『東京女子大学紀要論集』67:159-183.
2. 金秀美(2013)「韓国語の「고 오다」と「아 오다」について」『慶応義塾外国語教育研究』10:23-42
3. 崔치ョン아(2018)「韓国語テキストにおける「-eoseo」形と「-go」形について-日韓対照研究の観点からの提案-」『言語文化論叢』22:1-29.
4. 孫禎慧(2005)「日本語を母語とする韓国語学習者の誤用分析-해서形と하고形を中心に-」『朝鮮学報』195.
5. 八野友香(2011)「付帯状況を表すシテに関する一考察」『日語日文學研究』77:357-375.
6. 宮崎聡子(2015)「日本語母語話者及び日本語学習者による動詞中止形の使用状況-「YNU 書き言葉コーパス」の調査を通じて-」『岡山大学社会文化科学研究科紀要』39:179-194.
7. 益岡隆志(2012)「日本語の中立形接続とテ形接続の競合と共存」第31回中日理論言語学研究会. 同志社大学大阪サテライト・オフィス, 2012年10月21日.
8. 生越直樹・曹喜澈(2018)『ことばの架け橋[改訂版]』白帝社.
9. 魏聖銓(2018)『韓国と日本-くらべて学ぶ中級韓国語-』朝日出版社.
10. 金順玉・阪堂千津子(2017)『もっとチャレンジ!韓国語』白水社.
11. Kpedia. (オンライン) <https://www.kpedia.jp>

## A 付録

表 1

問題文	正解 (用法)	正答率
(1)여름은 ( 덥고 / 더워서 ) 겨울은 추워요. ヨルムン (トブコ/トウオソ) キョウルン チュウオヨ 夏は暑くて冬は寒いです。	덥 <u>고</u> トブ <u>コ</u> (並列)	80%
(2)우체국에 ( 가고 / 가서 ) 우표를 샀어요. 우체국에 (카고/카소) 우피올르 사쑤요 郵便局に行って切手を買いました。	가 <u>서</u> 카 <u>소</u> (先行)	85%
(3)오늘은 우체국에 ( 가고 / 가서 ) 미용실에도 갔어요. 오날룬 우체국에 (카고/카소) 미욘실레도 카쑤요 今日は郵便局に行って美容室にも行きました。	가 <u>고</u> 카 <u>고</u> (並列)	80%
(4)아침에는 세수를 ( 하고 / 해서 ) 밥을 먹어요. 아침에 (하고/해소) 밥을 모코요 朝は洗顔をしてご飯を食べます。	하 <u>고</u> 하 <u>고</u> (順序)	80%
(5)많이 ( 먹고 / 먹어서 ) 배가 불러요. 마니 (모코/모코소) 베가 블로요 たくさん食べてお腹がいっぱいです。	먹 <u>어서</u> 모 <u>코</u> (原因・理由)	95%
(6)학교까지 ( 걷고 / 걸어서 ) 가요. 학교까지 (코코/코로소) 카요 学校まで歩いて行きます。	걸 <u>어서</u> 코 <u>로</u> (手段・方法)	70%
(7)학교까지 버스를 ( 타고 / 타서 ) 가요. 학교까지 버스 (타고/타소) 카요 学校までバスに乗って行きます。	타 <u>고</u> 타 <u>고</u> (樣態)	60%
(8)학교까지 대중교통을 ( 이용하고 / 이용해서 ) 가요. 학교까지 대중교통을 (이욘하고/이욘해서) 카요 学校まで公共交通機関を利用して行きます。	이 <u>용</u> 해 <u>서</u> 이 <u>욘</u> 해 <u>서</u> (手段・方法)	55%
(9)화장을 ( 하고 / 해서 ) 학교에 가요. 화장을 (하고/해소) 학교에 카요 化粧をして学校に行きます。	하 <u>고</u> 하 <u>고</u> (樣態)	45%
(10)그 영화를 ( 보고 / 봐서 ) 감동했어요. 그 영화를 (보고/바소) 감동했어요 その映画を見て感動しました。	보 <u>고</u> 보 <u>고</u> (きっかけ)	40%

<테스트受験者について>

対象者：日本の大学において第二外国語として韓国語の履修経験がある学生。

学年：大学2年生10名、3年生5名、4年生5名、計20名。

韓国語学習歴：1年目1名、2年目11名、3年目5名、4年目2名、それ以上1名。